

真方一区公民館が癒しと ふれあいの場に

11月20日、宝くじ助成を受け備品を購入した真方一区公民館でオープニングイベントが開催されました。購入したのはテレビやマッサージ機など。齋藤保夫館長は、「誰でも気軽に集まり、楽しんでほしい」と話していました。



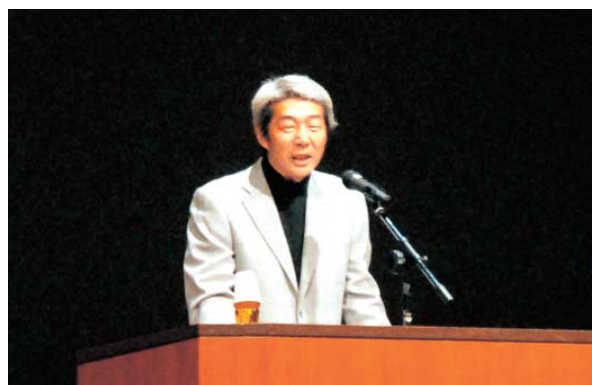
宝くじ収益金は、市町村の明るいまちづくりや環境対策、高齢化対策などの地域住民の福祉向上に使われています。

市民のための質の高い行政へ 行政評価外部評価委員会発足

11月22日、第1回小林市行政評価外部評価委員会が開催されました。まず、学識経験者や公募による市民など10人の委員に委嘱状を交付。市民が主体となったまちづくりのために、それぞれの立場から出た意見を反映し、市民のための行政運営を図っていきます。



委員長を務める入谷貴夫宮崎大学教育文化学部教授は「小林市の発展に貢献したい」と話していました。



石川遼選手との興味深いエピソードを紹介した勝美氏。入場料の一部は西諸地域自殺対策協議会へ寄附されました。

石川遼はこうして育てた 父親の勝美氏が講演会

11月16日、文化会館で石川勝美チャリティ講演会が行われました。青年会議所(坂本宇一郎理事長)がプロゴルファーの石川遼選手を育てた勝美さんの話から子育てのヒントを得てもらえればと主催。勝美さんは「息子には与えるのではなく、知恵を授けるように育てた」と話しました。



地域包括支援センター前田隆一センター長は「大会を通して、家族や地域の介護予防の意識向上につながれば」と話しました。

いつまでも健康で輝く人生を 太極拳で介護予防を学ぶ

11月20日、第5回ゴールデンエイジ大会が開催されました。NPO法人日本介護予防太極拳協会の前田篤宏理事長が介護予防につながる太極拳を紹介。前田理事長は「太極拳などの運動のほか、バランスの取れた食事と心の養生が大切です」と話していました。

感謝の気持ちを込めて すきむらんどでチューリップ植栽

11月15日と16日、すきむらんどでチューリップ球根の植栽が行われました。これは、口蹄疫被害への募金や寄付に対して、感謝の気持ちを表すために実施されたもの。須木の保育園児や小・中学生など約100名が参加し、温かい支援へ感謝の気持ちを込めて約3万個の球根を大切に植えていました。



チューリップの見頃は、3月中旬～4月上旬の予定。開花に合わせて音楽コンサートも開催されます。

手作りおもちゃで楽しく遊ぶ 小林小児童が慈敬園を訪問

11月16日、小林小の4年生26人が慈敬園を訪問しました。児童は、はなみずきの会(前田ノブ子会長)が作成した手作りおもちゃを使って、利用者とボーリングなどで楽しく交流。同小の殿所愛津紀さんは「皆さんが喜んでくれてとても楽しかった。また来たい」と嬉しそうに話していました。



交流を深めた利用者の中嶋俊子さんは「元気をもらった。楽しいひとときが過ぎて嬉しかった」と笑顔で話してくれました。



ゴール後は、豚肉や野菜の詰め合わせが当たる抽選会が行われたほか、ベタンクなどのニュースポーツ体験もありました。

秋山で自然満喫 ウォーキング大会

11月14日、霧島ジオパーク秋のひなもり台ウォーキング大会が、ひなもり台県民ふれあいの森で開催されました。小林元気クラブの牟田昭三会長が「友達や家族と語り合いながら、ゆっくりと歩きましょう」とあいさつ。74名の参加者は、すっかり色づいた自然豊かなコースを楽しみました。



けやき祭りでは、西小林小学校のシンボルであるけやきの木の前で児童が作詞した「けやきの歌」を元気に歌います。

収穫の喜びと地域への感謝 西小林小でけやき祭り開催

11月14日、西小林小でけやき祭りが開催されました。児童が育て、収穫した餅米で餅つきをして食べた後は、学年ごとに学習発表会を開催。6年生は「よびかけ『がんばれ!宮崎』」と題した、口蹄疫からの復興を願った発表を行い、観衆に大きな感動を与えました。